

(福)さくらゆき

岐南町・福祉

従業員数／男性25名 女性94名 計119名 ※令和4年11月現在

エクセレント
POINT

- ①「働きやすい」を実現できる多様なシフトパターン
- ②職員の新たなステージへの「挑戦」を支援
- ③職員の声から広がっていく法人の未来



二度の産休・育休を経て仕事と育児の両立を楽しんでいる職員。子育て中の職員が多く、急な休みにも協力し合う環境が整っている。

職員のキャリアアップ支援にも力を入れており、次のステージへ挑戦

二度の産休・育休を経て仕事と育児の両立を楽しんでいる職員。子育て中の職員が多く、急な休みにも協力し合う環境が整っている。

職員は多く、「手厚い対応に家族もびっくりしている」「子どもだけではなく母親である私の体調もしっかり配慮してくれて助かった」「家庭と仕事の両立を支援してもらい心強い」と話す。

高齢・障害・児童福祉を運営している社会福祉法人さくらゆき。職員の働きやすさを重視し、ライフスタイルに合わせて力を發揮できるよう、シフトは60パターン以上、勤務は週1日・1時間から可能となっている。育児・介護のための休暇や時短勤務の制度を利用する職員は多く、「手厚い対応に家族もびっくりしている」「子どもだけではなく母親である私の体調もしっかり配慮してくれて助かった」「家庭と仕事の両立を支援してもらい心強い」と話す。

二度の産休・育休を経て仕事と育児の両立を楽しんでいる職員。子育て中の職員が多く、急な休みにも協力し合う環境が整っている。

職員のキャリアアップ支援にも力を入れており、次のステージへ挑戦

二度の産休・育休を経て仕事と育児の両立を楽しんでいる職員。子育て中の職員が多く、急な休みにも協力し合う環境が整っている。

職員は、「将来が心配だという障害のある子を持つ親の気持ちに寄り添い、障害のある方の生活や就労のサポートをしたい」と明確なビジョンを持っており、現在は相談支援専門員の勉強を始めている。同様のキャリアアップをしてきた先輩職員に指導を受けながら障害福祉の実務経験を積み、着実に夢へと近づいている。法人としても、資格取得を目指す職員に対しても、勤務時間内に研修が受けられるように

する職員が多い。社会福祉士の資格取得後、2022年4月に未経験で生活支援員として入職した職員は、「将来が心配だという障害のある子を持つ親の気持ちに寄り添い、障害のある方の生活や就労のサポートをしたい」と明確なビジョンを持っており、現在は相談支援専門員の勉強を始めている。同様のキャリアアップをしてきた先輩職員に指導を受けながら障害福祉の



福祉・医療・行政と連携し、相談者の心に寄り添った最適な計画を立てられるよう専門的な業務を覚える。

する職員が多い。社会福祉士の資格取得後、2022年4月に未経験で生活支援員として入職した職員は、「将来が心配だという障害のある子を持つ親の気持ちに寄り添い、障害のある方の生活や就労のサポートをしたい」と明確なビジョンを持っており、現在は相談支援専門員の勉強を始めている。同様のキャリアアップをしてきた先輩職員に指導を受けながら障害福祉の実務経験を積み、着実に夢へと近づいている。法人としても、資格取得を目指す職員に対しても、勤務時間内に研修が受けられるように

は、職員や利用者の希望であったパン直売所が2022年5月にオープン。毎日笑顔で店頭に立つ利用者の姿に、職員も自然と笑顔がこぼれる。さらに、個室ユニットと多床室が融合されたハイブリッド型の特別養護老人ホーム「さくらの舞本館」が2023年7月完成予定。理想の福祉を実現し、よりたくさんの方に喜ばれる施設を目指している。



岐南町に建設中の「さくらの舞本館」。個室と多床室を合わせ80床の大規模施設となる。

安心して暮らせる街づくりに注力

調整し、費用も法人が全額負担するなど手厚くバツクアップをしていく。

また、職場の風通しの良さから、職員の声をきつかけとした新規事業展開が続く。

障害者就労継続支援事業所であ

る「製麺・パン工房さくらゆき」に

は、職員や利用者の希望であつたパ

ン直売所が2022年5月にオープン。

毎日笑顔で店頭に立つ利用者の姿

に、職員も自然と笑顔がこぼれる。

さらに、個室ユニットと多床室が融

合されたハイブリッド型の特別養

護老人ホーム「さくらの舞本館」が

2023年7月完成予定。理想の福祉

を実現し、よりたくさんの方に喜